

平成24年(2012年)7月

坂本晴美

吹田市立図書館協議会での検討事項について

第1案件

中央図書館の老朽化に伴い、早急に建替案を検討するべきと思う。

高齢化が進み、一寸見ができなくなった人たちの大勢が難儀しているのは、坂であるのが欠点であると思うし、下にある放置自転車の保管所と入れ替えるのも一案と思う。少し土地が狭いかもの欠点があるのならば、上に伸ばせばとも思う。簡単に利用できて便利であれば利用者も倍増できて市民サービスの原点ではないかと考えられる。

現在の若者層たちは、食生活も一変してハンバーグやウィンナーなどで済まし、野菜類特に必要な根菜類を取らないので、体質も弱く貧弱で体力低下していて、少々の坂でも辛く思い、努力から離別する傾向にあるようで、家庭での親の甘やかしからだとも考えられるが、この案件は急務だと思う。

第2案件

定年退職後の男性群は、女性群に比較してカルチャーなども参加が減少している。女性10人に対して1~2名という侘しさをよく見かける。はたしてこれで良いのか。

生活に行動が見えないのは、認知症になる原点ではと思うが、どうであろうか。

社会へ通用する美芸を持ちながら、眠らせていいのかと思い、何とか優れた頭脳を働かせる様に献立をするのは誰がするのかは、公民館であったり、また協同で具体策を練る方法はないのかと思う。

図書館と国際交流協会でも、国外だけでなく国内あつての国外とも考慮してみたらと思うのは、私だけなのか。認知症の旦那を連れ歩く妻の姿が増加しているのが目立ってきたようだ。

枠組みがはずれた話かも知れないが、自分の現在の思いを認めた次第であります。

以上

平成24年7月

第5期吹田市立図書館協議会の検討事項について

末岡 光代

「児童奉仕のさらなる充実と、学校図書館の整備」「きし
べ地区をカバーする新たな図書館の整備」

昨年度の吹田市の人口約35万5千人のうち15歳未満は14.7%ですが、この世代は未来を拓く可能性にあふれ、金のたまごと言うにふさわしい世代です。この世代に対して、図書館がかけるサービスは、他の世代へのサービス以上に比重が高くないはずだと思います。子どもたちの読書環境を整えることは、本好きな子どもを増やし、子どもの心を豊かに育て、ひいては将来の図書館利用者人口を増やすことにもつながっていきます。子どもたちの成長は待たなしです。成長過程において、登場人物と一緒にせつない思いを共有したり、想像力をふくらませてはじけるような楽しい思いにひたったり、また不思議な事柄を解き明かす知識や科学の本にひきこまれたりしながら、子どもたちがさまざまな心の経験をつみ、考える力や思いやりを十分に養ってほしいと思います。

子どもたちが本と関わる際には、大人のそれとは違い、成長や年齢に応じた適切な配慮と橋渡し役が必要です。家族でも、地域の大人でも保育園や学校の先生でも図書館員でも、子どもたちが良質な本と出会うことができるように橋渡しをする者が必要です。図書館はまさにその橋渡し役の中核となる公共施設です。

吹田市立図書館では、0歳児へ絵本のプレゼントをするブックスタート事業が行われています（平成23年度の絵本配布率は80パーセント以上）。その後は各図書館においてボランティアさんの助けを借りながら、幼児とお母さん対象に、絵本と触れ合う機会が設けられています。参加者数も多く、市民の好評を得ているようです。

ところが、子ども達が保育園や幼稚園に通うようになるころから図書館とのつながりが希薄になり、小学校高学年ともなると図書館離れ、本離れが顕著に現れてきます。

図書館では毎年「子どもと本のまつり」が行われていますし、大人対象の講座「子どもと本の講座」も連続講座として定着しています。「おめでとう一年生」「もうよんだかな」「てくてく」などの冊子も配布され、学校訪問も定期的に行われています。また、学校には図書室があり、地域の児童館にも本があります。私達のような地域文庫も活動しています。つまり吹田市内では、図書館内外で子どもが本と触れ合うチャンスはそれなりに用意されています。しかし、中核施設の市立図書がもう一歩踏み込んでいかないと、それらのチャンスが有効に活用されず、ますます子どもは本から離れていってしまいます。せっかく幼児期に芽生えた本への興味が、しだいに薄れていくのは大変残念です。

- ・ 保育所、幼稚園、学校、児童センター、など、図書館以外の施設との連携
- ・ 子ども関連イベントや配布物についての検討
- ・ 子育て世代の親へのアピール

など、図書館が外に向かって発信し連携する部分と、図書館に足を運んでもらえるような求心力の部分の両方についての検討が必要だと思います。

学校図書館の未整備問題ですが、吹田市の現状は近隣の豊中市や箕面市にくらべると大変おそまつです。市内の小・中学校は53校もありますが、吹田市で今年度に採用された「読書活動支援者」は24名で、いまだ複数校兼任で業務にあたっています。しかも仕事ができる時間数は少なく、研修もありません。意欲的な支援者が自主的に努力すればするほど勤務時間や待遇の壁がたちはだかり、ジレンマのなかで子どもたちに十分なサービスができないまま一年の契約が終わってしまう、という状況です。こんなことでは支援者のみならず現場の教師たちにも、学校図書館の魅力や重要性を見直そうという機運が芽生えたとしても、発展はしていかないのではないのでしょうか。そして、吹田市の子どもたちは学校図書館の恩恵を十分にこうむることなく卒業してしまい、「学校の図書室は、なんとなく本がたくさん並んでいた暗い教室だった」という昔ながらの印象しか残らないのです。

そうではなくて、ポップや掲示などの工夫が随所でされ、常に司書がいる明るい図書室で、司書の先生がブックトークをしながらたくさんの魅力的な本を紹介してくれて、友達同士でも本の紹介や批評を合えて、ある時には調べ学習のために図書室にこもり、またある時には司書の先生に悩み事まで聞いてもらう、などという学校図書館が吹田市内の各学校にあるべきなのです。また、各教科の進み具合と連携のとれた資料が図書室にそろっていて、それを上手に利用できれば、子どもたちの学習意欲や向上心が増すことも考えられます。

いま島根県の学校図書館が注目を集めています。島根県は人口が吹田市の約2倍とか。そこで全县あげてユニークな方法で、小・中学校の学校図書館の整備と活用に取り組み、その成果は県立図書館のHPでも公開されています。理想的な学校図書館を思い描けばきりがありませんが、一歩前をいく他府県他市の図書館をお手本にしなければ前進はできません。

以上、子どもの本に関する検討事項でしたが、もうひとつ検討していただきたい事柄に、きしべ地区の図書館問題があります。

きしべ地区には図書館がありません。市内のあちこちで新しい図書館がオープンするにつけ、きしべ地区が依然図書館空白地帯になったままであることが憂慮されます。JR 岸辺駅前が整備されつつあり、近隣の人口も増えてきています。この問題についても、是非とも当協議会で検討していただきたいと思います。

◆建物・設備について

2012年度基本方針に、中央図書館は建築後40年で利用実態に対応できなくなっており、再整備の構想作りを目指す、とあります。今後何年かのうちには建て直すという事かと思います。どのような施設にするかというのがここ数年の最大の課題でしょう。利用者の意見・要望を積極的に吸い上げるように。中学生や高校生が集まるような、子供連れの母親が集うような、ビジネスマンも寄るような施設に…。東大阪にある府立図書館のような立派なものをめざして欲しい。

・公衆電話の復活・・・NTTの都合で撤去したようだが使用頻度はともかくとして、緊急時の為にも

・開架部分を増やす・・・書棚に並んだ背表紙を見て歩き、自由に手にすることができるのが最良。

・男女共同参画センター、平和祈念資料室など他の公共施設にはその目的・役割にふさわしい図書がそろえられています。ただ、図書館のようにコンピューターによる管理まではされていないのでは？これら全ての「センター」としての役割を持つというのはどうでしょうか。

・食堂・・・市内の農家と提携して食材は地場産品によるメニュー。地産地消のレストラン。サラリーマンもやってきて賑わうようなのができないものか。音楽も流れる静かな喫茶コーナー。

◆ほんのお知らせ&ホームページに関する事

「ほんのお知らせ」に掲載する事がらで「新しく入った本の紹介」欄はもっとも重要なことです。レイアウトが6月から変わり横1行になりました。これまで何となくスペースが勿体ないと思っていたので、スッキリしました。さらにリニューアルの余地がないか？たとえばフロント面。考え方の問題ではあるが、最も目につく所です。カレンダーと図書館の電話番号を載せるのはいかにも勿体ない。7月号で言えば、2面の「今月のもよおし」の方が値打ちがありはしないでしょうか。最終面も同様で、7面の「こどものほん」と入れ替えてもいいくらい。

・「本の紹介」の所に2012年7月と入れればその部分だけ取り出すこともできる。

・CD、DVDの掲載は難しいか

・メルマガにある「蔵出しの一冊」をこの「お知らせ」にも（「バックナンバーはHP参照」とつける）

・ホームページ 使い勝手を良くする（図書館にある端末の画面は使いやすい）

「2頁目」は1画面（スクロールなし）でいけそう

・検索語は少し違ってヒットするようにはできないか（たとえばYAHOOのように）

◆図書に関する事

図書やAV資料は豊富にそろっていると思いますが、さらに充実していくことが重要。スタ

ンダードな図書（このような言い方をするかどうか）は古いもので需要が余りないと思われるものでも採取・補充を。リストアップして提供を呼びかけるのも一つの方法かも。

- ・図書検索結果の「内容細目注記」の充実・・・ガイドとしてぜひ。作業は大変だが。
- ・定期刊行物のバックナンバーの整理
- ・新聞記事データベース・・・基本方針にボランティアとの共同で作業、とあります。浦安市立中央図書館では「新聞社のデータベースを無料で利用できるようにした」（2011・7・9 朝日）と。どのような方法でしょう。
- ・府立など他の自治体の図書館からの借り出し・・・受け取り館を指定して、自宅からネットで申し込む。図書というより提携関係の問題。

◆NIE との関係

YA 向けサービスの一部として NIE との関係を見る。文章・言葉を学ぶ、という側面では、新聞は天声人語（朝日）編集手帳（読売）余録（毎日）などのコラムは優れているが、ニュース記事は必ずしも手本になるとは言えない。物事を知る、という点では新聞は宝庫といえる。が、一般論として、新聞は読まないよりは読むほうが良いが、必ずしも新聞を読まねばならない、とは言えない。中・高生はそれだけでなく忙しい。現場の先生の意見を聴きたい。

以下は百歩譲って、NIE を是とするなら…の話

- ・新聞（そのもの）を見る（読む）→習慣化…読書指導のように“読新聞”指導？
- ・新聞記事→関心→関連書籍・・・新聞記事のピックアップ

（量は膨大、担当者の好み・見識次第。揭示方法？）

書評欄は大人の為の頁

ニュース面（家庭面、投書面なども）

2012年7月11日

第5期図書館協議会諮問テーマ案

協議会委員 中川清司

テーマ案：吹田市立図書館の「価値」あるいは「存在価値」

テーマ検討に際して踏まえておきたい環境変化

1) 少子高齢化社会

- ①図書館利用層に変化
- ②市の税収減・財政悪化

2) 「民（間）」Powerの導入・活用 添付2012年5月18日（金）朝日新聞記事

- ①PFI (Private Finance investment)
- ②図書館業務の外注化
- ③指定管理者制度

3) IT社会化

- ①図書館サービスの tool
- ②図書館資料の IT 化
- ③「使う（使える）人」と「使えない人」の格差

※参考資料

平成24年（2012年）5月18日 朝日新聞朝刊「図書館民力貸して」の記事

2012年7月31日

稲垣房子

吹田市立図書館協議会での討議事項（提案）

吹田市内学校への連携強化について

「吹田市立図書館の基本方針と目標 平成 24 度」で報告されているように、多様なサービスへの取り組みが進められている。その中でも児童サービス（乳幼児からヤングアダルトまで）は従来から中心的なサービスと位置づけられ、着実に歩んできた。しかし、その中で一番の課題は「学校への連携・支援」だと考える。児童サービスは公共図書館で完結するものではなく、子どもが日々通う学校との連携があってこそ、子ども達のもとに届く。そのことは『子どもの読書活動の推進に関する法律』にも以下のように明示されている。「第 7 条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。」

「吹田市の図書館活動 平成 23 年度版」での「学校連携」項目では年間 29 回の活動が報告されている。児童の図書館への訪問などと共に、「学校図書館担当者研修」「保育園部会研修」「初任者研修」「学研図書館部会交流会」等が開催されている。

吹田市内の学校での取り組みは 2012 年 2 月に島村委員・浅野委員より、学校における『朝の読書活動』について報告があった。吹田市内小学校では全 35 校中、実施校は週 1 回が 15 校、週 2 回が 15 校、その他が 5 校。中学校で全 18 校中、実施は週 5 回 10 分が 7 校、その他が 3 校、であった。

同じく 2012 年 2 月の吹田市図書館協議会の意見・提言の中に、「市内学校図書館との連携強化を図るために、調べ学習を前提にした学習プログラムを共同開発する。」と提言された。

吹田市の学校図書館の状況を正確に把握する資料は持ち合わせないが、以下の問題点が浮かびあがってくる。第 1 は学校には学校支援者の配置がスタートしているが、勤務時間数が少なく、複数校かけもちで担当しているため、学校図書館での必要な業務が不十分なものとなっている。第 2 は市立図書館から、学校現場への恒常的な話合いの場が持っていないこと。第 3 は学校への配本体制ができていないこと。

「吹田市子ども読書活動推進計画」平成 19 年度「4. 学校における読書活動の推進」では「学校における読書活動は、生涯学習の基礎を培うとともに、子どもの語彙を豊かにし思考力を養うなどの学力の基盤であり、情緒豊かな心を育成する上でも、非常に大切です。」と取り組みの重要性が述べられている。「吹田市子ども読書活動推進計画」の第 2 次策定の時期にきていると考えられるので、是非学校との連携支援強化の具体的で実効性のある提案を期待したい。教育委員会学校教育部との連携も重要となってくる。

図書館協議会では、吹田市の学校図書館の状況を正確に把握しながら、討議を進めたいと考える。